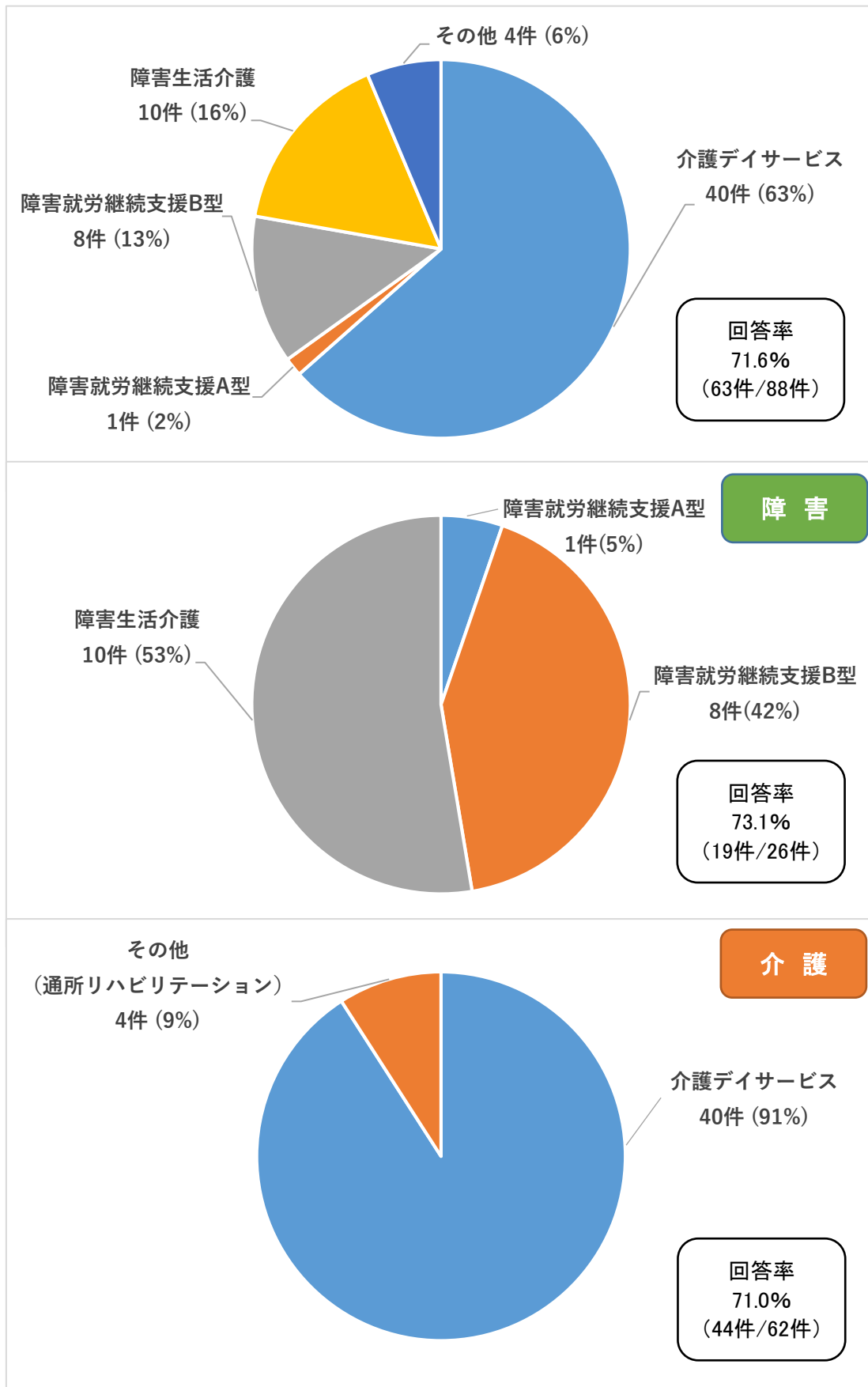
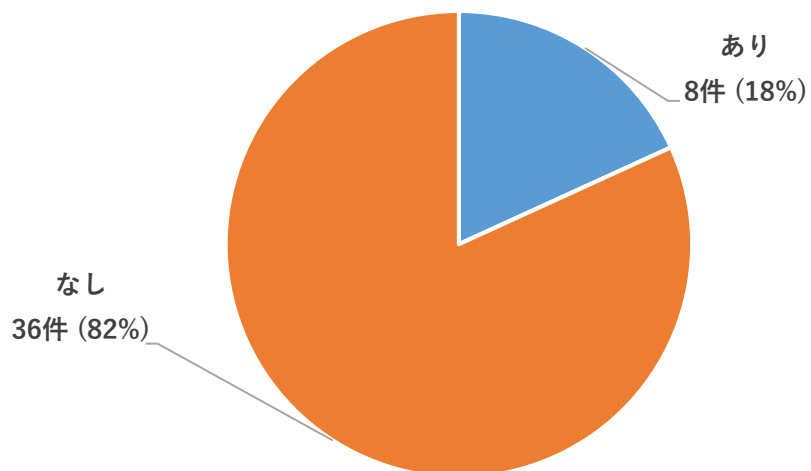
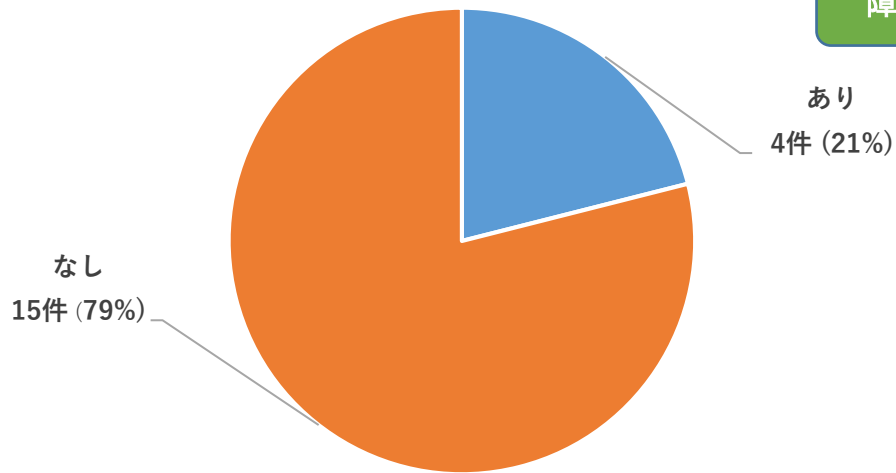
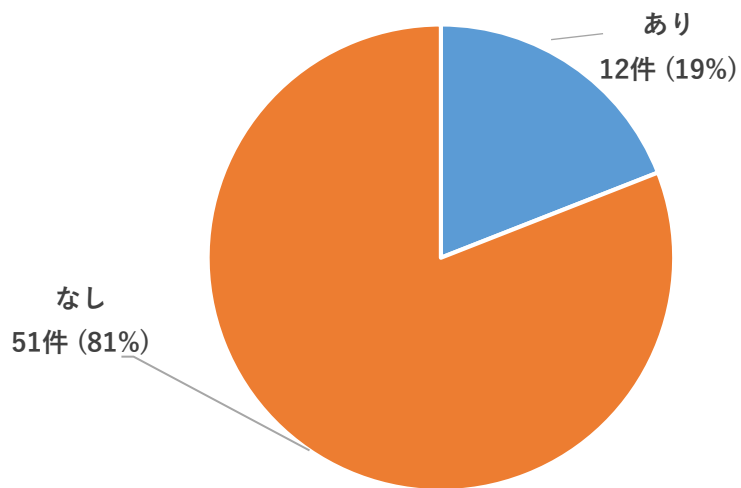


「農福連携防府モデル」アンケート結果（福祉事業所）

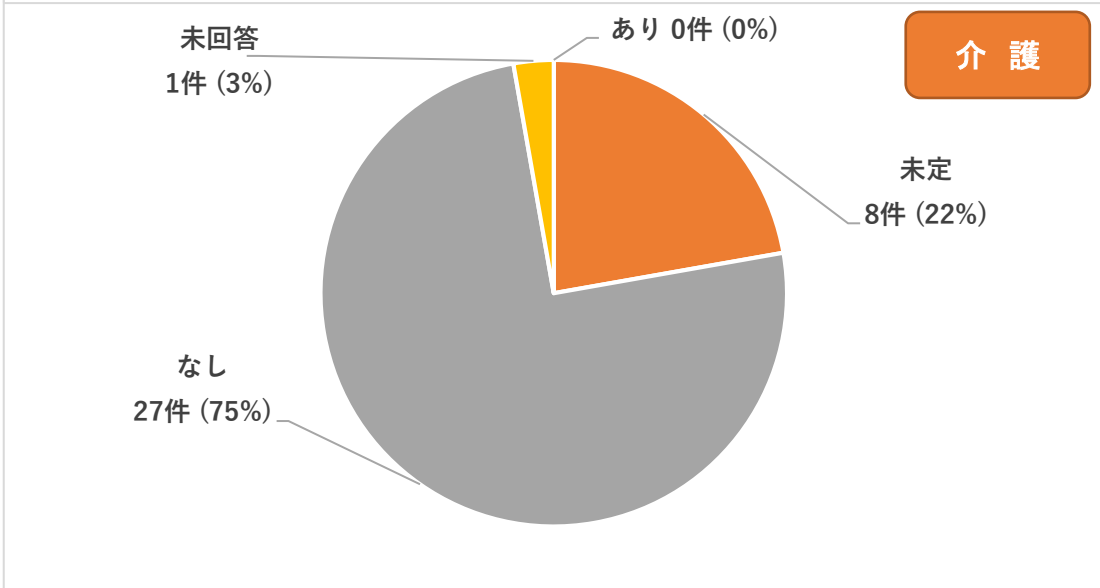
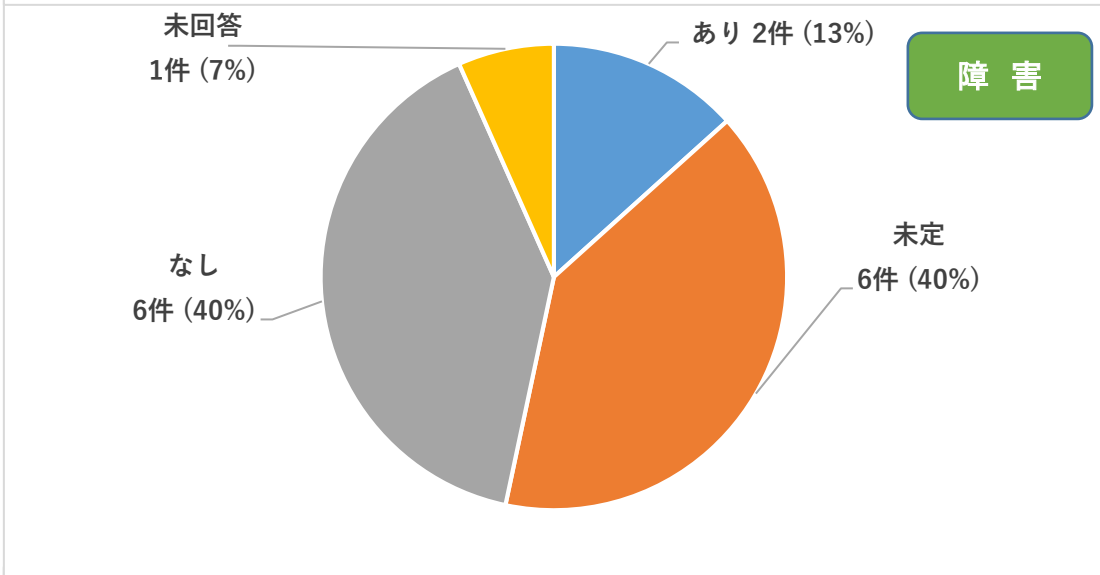
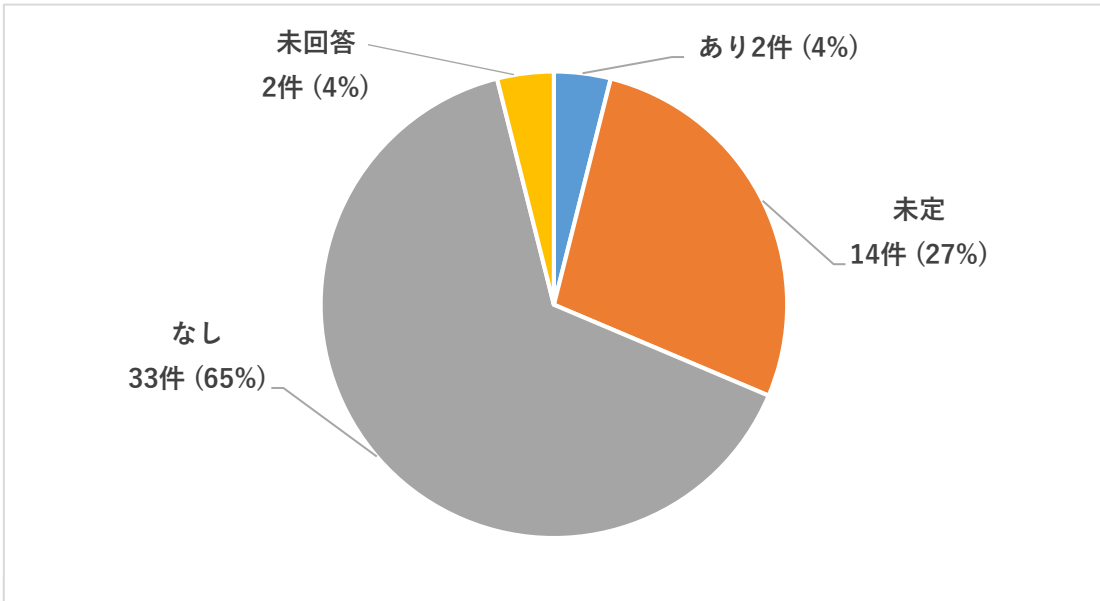
Q1. 事業所種別



Q2. 貴事業所で既に行っている農作業はありますか



Q2-1. 今後、農作業に取り組む予定はありますか
 ※Q2「なし」で回答した事業所

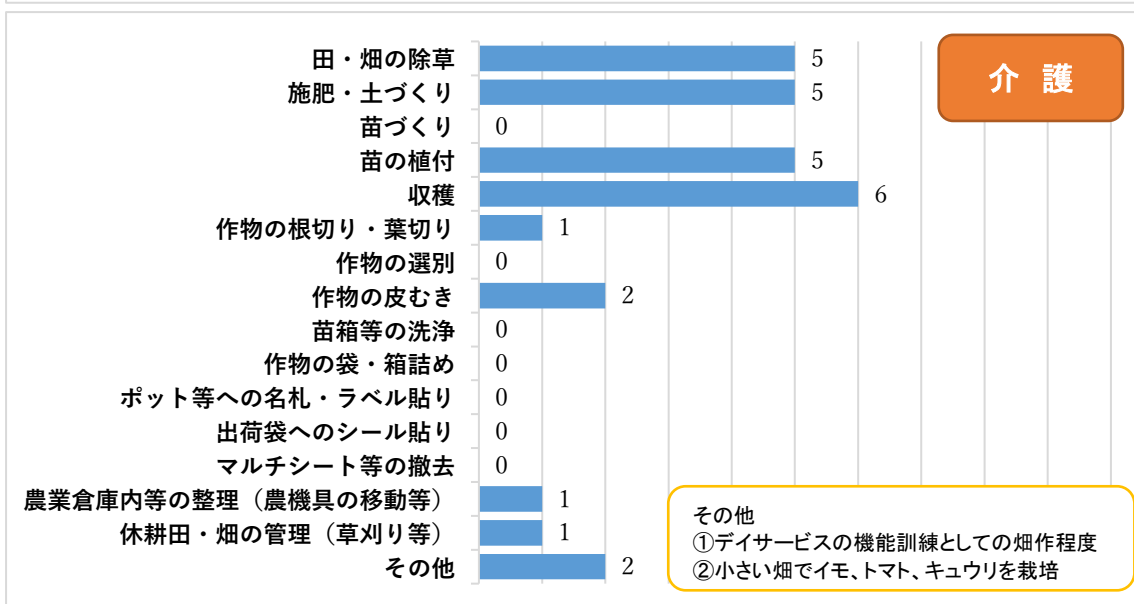
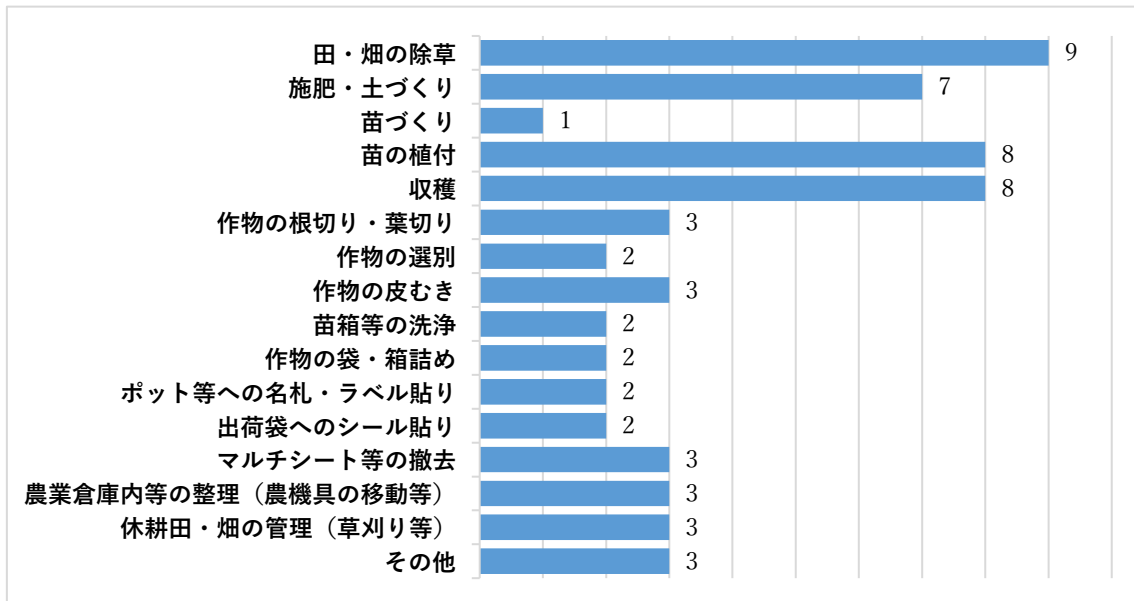


Q2-1. 今後、農作業に取り組む予定はありますか

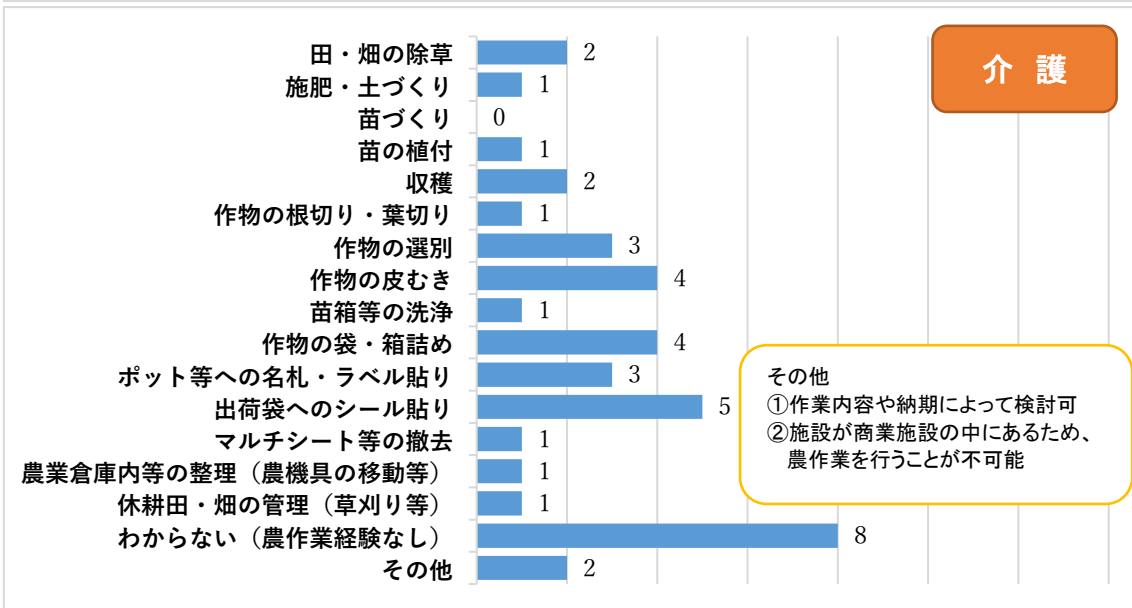
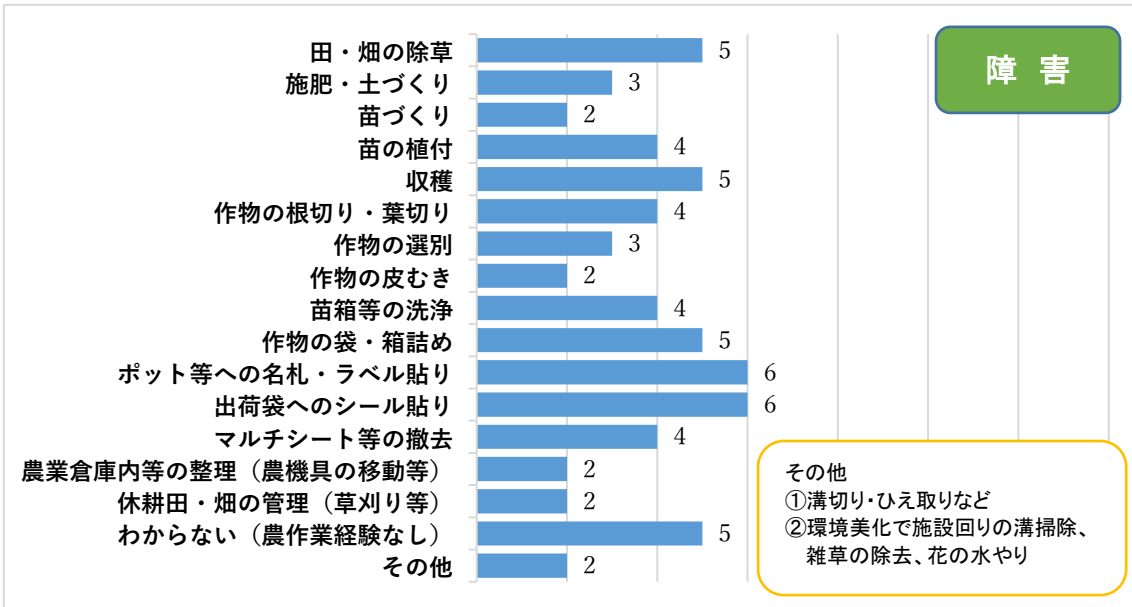
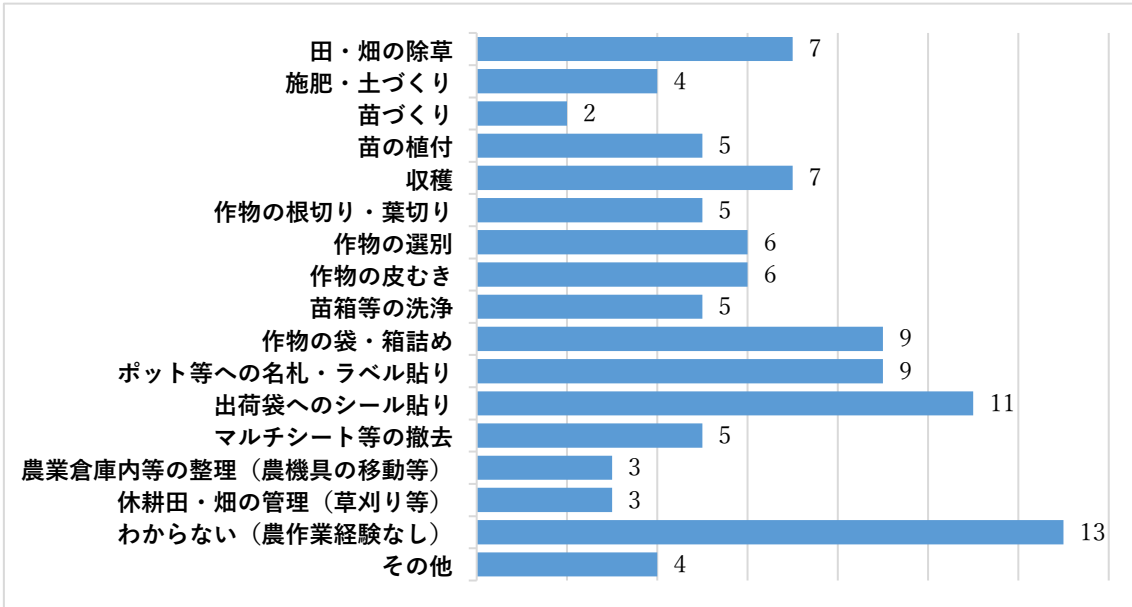
【理由（自由回答）】

	障害	介護
あり	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内に畑を作る予定 ・作業種類を増やしていきたいため 	—
未定	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所で行える農作業があれば ・農業分野に興味や取り組みたい気持ちはあるが、現在取り組んでいる仕事（作業）量が十分にあり、今の仕事量を減らさないと取り組むことができない ・生活介護の利用者でもできる農作業があるか？相性は良いか？出来るのならやってみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人員不足 ・場所と人の問題 ・建物が4階にあり、土地や場所の確保ができない ・外出が難しい利用者が多い ・利用者が90～105歳と高齢のため
なし	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業場所がない ・作業可能と思われる利用者がいない ・利用者の高齢化で作業が難しい ・作業会計を設定していないため、利用者に工賃として配分できない（作業収益が見込めなくなったため作業会計を閉じた経緯がある） 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くに農地がない ・農作業スペースがない ・職員がさし木等を行っている ・機能訓練型デイサービスで食事の提供もなく、午前と午後でリハビリや運動の繰り返しのため ・時間的な制約 ・介護度が高い、心身病的に不可歩行に不安定な方が多く、参加できる方が少ない ・施設に農業経験者がいない ・スタッフの確保が難しい

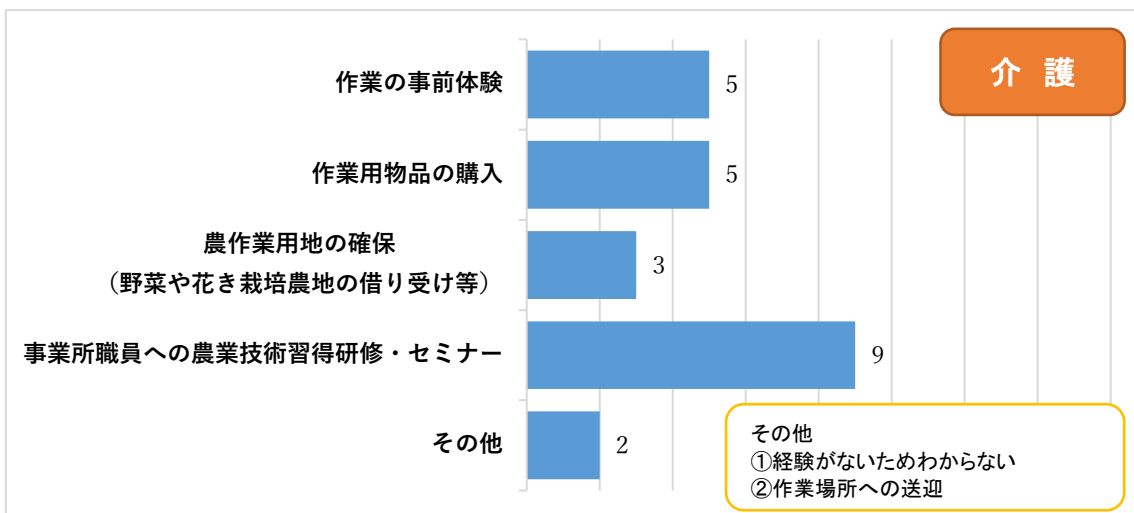
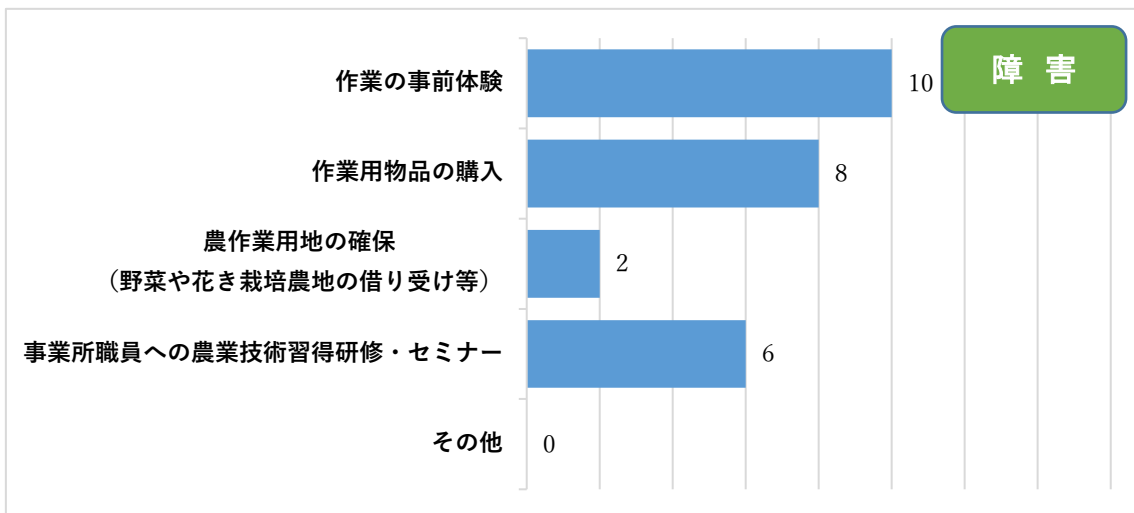
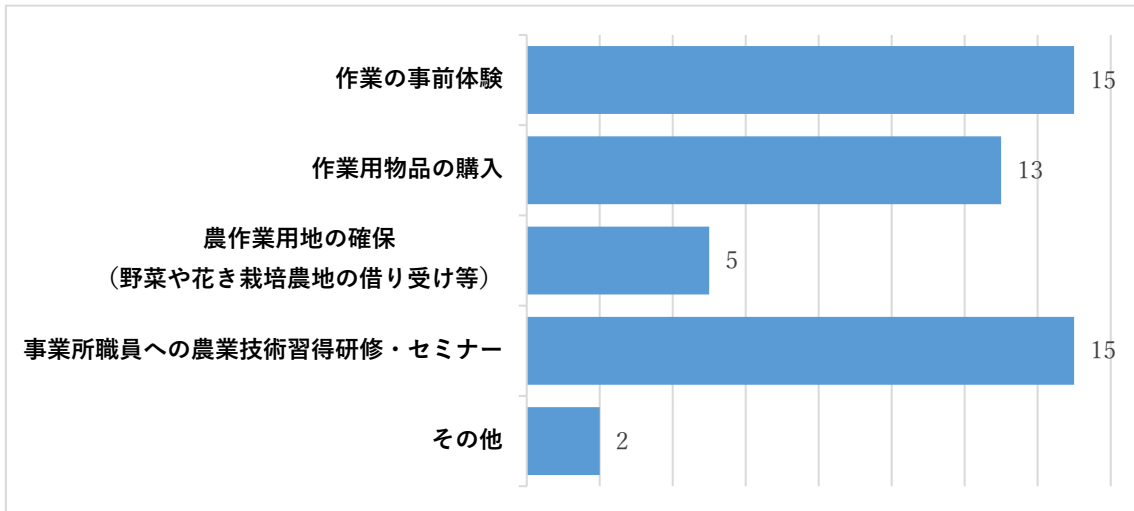
Q3. 既に行っている農作業は何ですか（複数回答可）



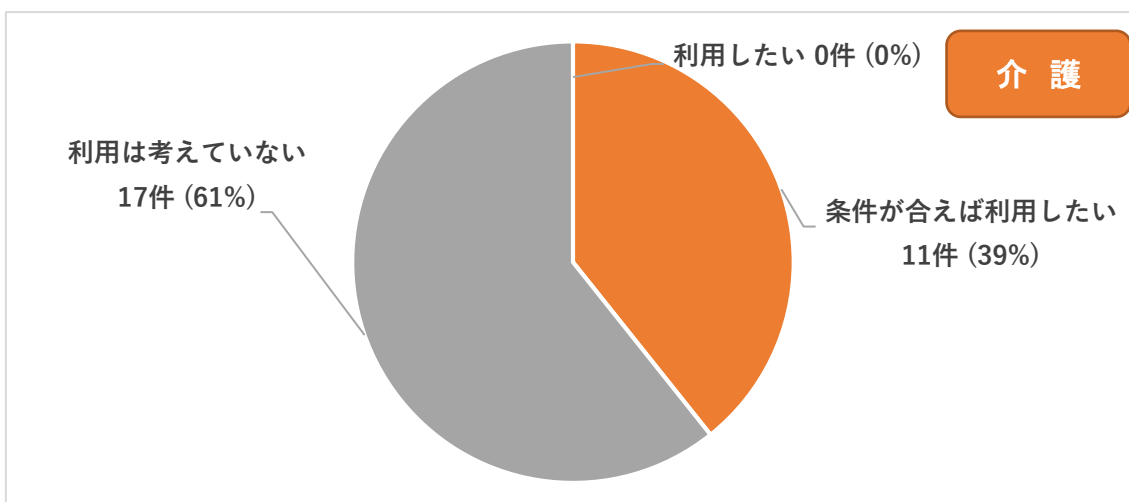
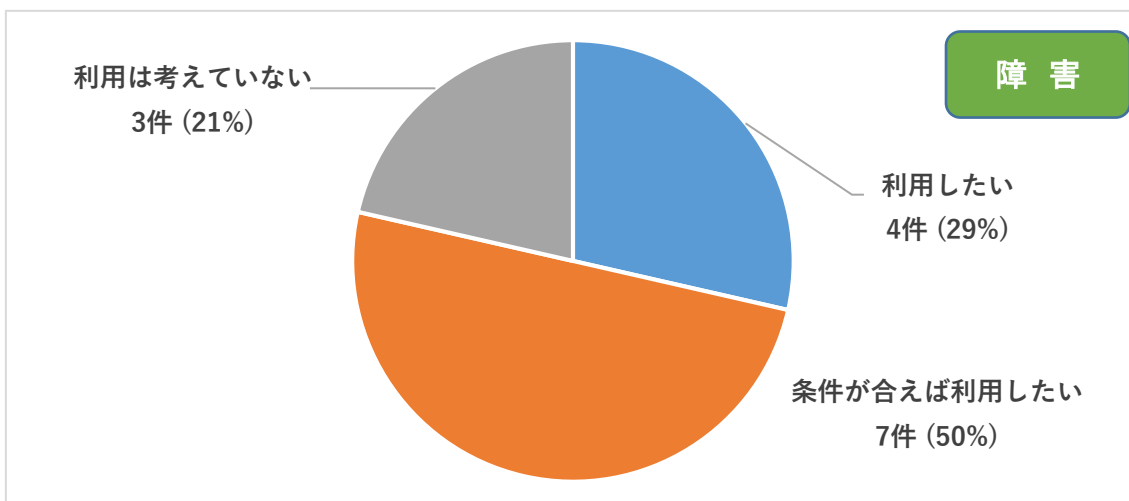
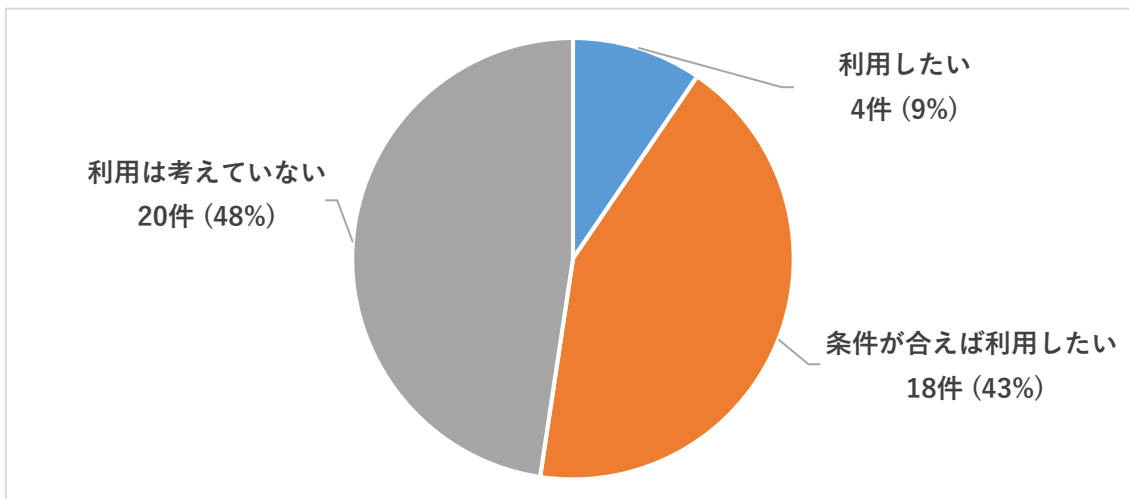
Q4. 今後、受託可能な農作業があれば回答してください（複数回答可）



Q5. 貴事業所で農作業を受託する場合に必要な支援があれば回答してください(複数回答可)



Q6. 防府市で農福連携が開始した場合、利用したいと思いますか



Q6. 防府市で農福連携が開始した場合、利用したいと思いますか

【具体的な条件(自由回答)】 ※「条件が合えば利用したい」と回答した事業所

障害

- ・勤務時間、納品期日等の条件が合うこと
- ・作業スケジュールにむらがないこと
- ・職員の対応が可能な時期か、利用者の能力と合う作業であること
- ・イニシャルコストの金額が低額で収まること
- ・受注金額が、経費を引いた後に工賃向上につながること
- ・定期的に利用者数及び職員数が確保できること
- ・あくまで利用者主体での作業になることへの理解があること
- ・近くのエリアで、不定期でお手伝いできるような作業であること(草刈、ごみ拾い)
- ・利用者本人に合った作業内容で、意欲が認められること

介護

- ・短時間、単純作業であること
- ・作業内容、量、所要時間、出来栄の品質等が条件に合うこと
- ・現体制で実施可能な条件であること
- ・移動手段、場所など様々な条件が必要になるため、実際にモデルテストをやってみないと分からないところもある。

Q7. その他、農福連携の疑問点や期待すること、事業所で農業に取り組む上での課題など自由に御記入ください。

障害

- ・防府市での農福連携が上手く機能し、農業の労働力不足の問題が解消されるとともに、作業に従事する障がい者が農作業を通して、誇りややりがい、助け合う気持ちを感じられるようにしていけることに期待します。
 - ・農作物は成長過程が見て分かりやすく、作業工程として利用者に意図が伝わりやすいと捉えている。自然相手のため難しさがあるが、今後取り組む作業の一つとして考えていきたい。
 - ・当事業所でも受託可能な農作業があるかもしれないので、情報はしっかりと共有したい。
 - ・農家などの人材不足を補うことも一つですが、福祉事業所自体が事業として農業に取り組み、地域農業の支え手になることも面白いと思います。
 - ・イニシャル及びランニングコストの検討がつかないため、工賃向上につながるか不安。
 - ・定期受注作業があるため、作業人数の確保が難しく、作業スケジュールの見通しも難しい。
 - ・利用者によって理解・技術等に幅があるため、利用者の能力に応じた作業の提供が必要。
 - ・必要な人数や作業の時間帯等が農家の希望にマッチするか、農業未経験者でも行えるような作業なのか。
 - ・職員引率での作業になるが、あくまで利用者主体での作業ということを理解していただきたい。はじめは理解していただいても、結局職員が主体になったり、やっていくうちに期待が高くなり、量や質が求められてくると難しくなる。
- また、賃金も単価が安かったり、1人分の時給しかもらえないが、作業する利用者は3人だったりすると支払う工賃も少なくなることもあるため、可能な限り配慮もしていただけると嬉しい。
- ・施設の草取りや溝掃除などは、活動として取り組んでいます。通所利用者でも可能な農作業など(内容、作業量)を教えていただければ、その中で可能なものはやっていきたいと考えています。
 - ・農業の担い手不足や高齢化が進んでいる中、家族で農作業に従事されている方が多いが、どこまで需要があるのか、どんなことを希望されているかが不透明だと思います。
 - ・利用者に、目に見えて作物の収穫や体験の喜びが分かり、成果として見出せることができるのか疑問。
 - ・利用者自身に合った内容で、意欲をどこまで維持できるかが課題。
 - ・「3K」と言われる農作業の過酷さに、利用者が耐えることができるのか疑問。
 - ・実際に従事するにあたっての働きやすい環境づくりが課題。
 - ・なぜ農福連携なのか。農福連携の趣旨が理解できません。
 - ・農福連携の実現のメリットは大きいと思いますが、利用者の心身状態への配慮を考えると生活介護の利用者が安定して作業を継続していく事は難しいと感じます。

介護

・事業所の職員が農業未経験だったり、利用者の足腰が悪かったり、また、車イスだったりで難しいと思いますし、土地の確保の問題もあると思います。

・事業所としては難しいですが、利用者個人だと興味がある方はいるかもしれません。

・機能訓練に特化したデイサービスであるため、時間的に難しいというのが現状です。

小さな花壇が一つありますが、農作業ができるほどの土地もなく、今のところ農作業に取り組む予定はありません。

・通所でも重度、認知の方が多いため、ご協力できなくて申し訳ありません。

花壇で、花や少しの野菜を育てるだけで精一杯です。

・職員を農作業に回す余裕がないため、なかなか取り組める状況にない点が課題である。

農作業経験のある利用者が少なくなっている点も参加に消極的な一因である。

(利用者の世代が若くなってきており、当デイでは60～70代が主な年齢層であり、元会社員、専業主婦が多い)

・高齢者が作業を行うため、その日の体調や気候に左右されてしまいます。

・心身の病状的に自己管理できないため、実施すると職員がやるようになる。

・施設敷地内に農地の確保ができない。借農地へは移動が困難。

・事業としての農業の取組であればデイサービス内での実施は制度上可能か？

(レク作業としてならばデイサービス内で可能だとは思う)

・農作業や出荷まで一連の作業を行うデイサービスの事業があると良いと思う。

デイ利用中のメニューとして取り入れると植え付けや収穫のみに利用者が参加し、手入れ等スタッフの負担が増えるということが予見される。

・見守りや転倒防止のため、職員の十分な確保が必要と思う。

・当所は、地元の農家の方や近所の人達から指導してもらい、入所者の方と協力しながら野菜等を作っています。

利用者の方達には認知症や高齢による体力的な問題もありますが、少しだけの収穫でもとても喜びながらしています。今のところ地域の方々とのつながりを大切にしたいと考えています。

・本人、家族の了承やケアプランへの落とし込み、けが防止の環境整備等どうするのか？

希望者の意欲向上や身心面、やりがい等、とても建設的でおもしろいと思う反面、課題も多くあるように思います。

・参加される利用者の安全をどの程度確保できるのかが課題としてあります。

・農林水産省の農福連携とは違うものでしょうか？またはその一環か？

介護保険に関わる通所の人員要件に影響、支障がないかが懸念される。

・要介護者のため、農作業は難しいと考えます。

・工事予定があり、しばらくの間は極小スペースとなり、令和5年頃までは畑作業はできないと思われる。工期終了後は様々な面での取組が出来たらと考えます。

・現時点においては、職員、利用者の方々は農業の経験がありません。

よって今の状況では参加できませんが、条件等が合うようになれば考えたいと思います。

・当事業所は 1 時間 10 分の短時間の通所リハビリテーションであるため、リハビリ以外に農業に取り組むスペースや時間が設定できません。

利用者の中には自宅で農作業をされている方もいらっしゃいますし、以前はしていたが既にリタイアされた方もいらっしゃいます。

ご高齢の方でも身体に無理なく参画できるものが他の事業所等で提供されたら、生活の意欲が活性化されると良いと思います。

・納期や手順など見守りや段取りをする時間やスタッフ確保が難しい。

・利用者で取り組める方が少ない。”